

令和7年度いくとぴあ食花要求水準・目標値(評価指標)

視 点	評価項目	令和7年度 評価指標	いくとぴあ食花4施設	食と花の交流センター	食育・花育センター	動物ふれあいセンター	こども創造センター	令和7年度実績	評価	評価コメント
市民	入場者数	いくとぴあ食花4施設の来場者数 :最終年度(R9)までに170万人以上/年 ※令和7年度目標 1,650,000人	○					1,739,327人	A	指標を上回った
	団体利用	食と花の交流センター :最終年度(R9)までに利用団体260団体以上/年 ※令和7年度目標 240団体		○				220団体	C	指標を下回った
		食育・花育センター :最終年度(R9)までに利用団体370団体以上/年 ※令和7年度目標 360団体			○			457団体	A	指標を上回った
		動物ふれあいセンター :最終年度(R9)までに利用団体400団体以上/年 ※令和7年度目標 390団体				○		445団体	A	指標を上回った
		こども創造センター :最終年度(R9)までに利用団体370団体以上/年 ※令和7年度目標 350団体					○	528団体	A	指標を上回った
	体験と学習	団体体験プログラムの実施:最終年度(R9)までに320回以上/年 ※令和7年度目標 320回/年	○					918回	A	指標を上回った
	交流の拡大	交流イベント :8回以上/年	○					8回	B	指標の通り
	多彩な事業展開	食・花・こども・動物分野のコラボ事業の実施 :320回以上/年	○					261回	C	指標を下回った
	食育・花育の推進	・料理教室等の開催 :62回以上/年 (主催・共催・委託を含む) ・食育ミニ体験の開催 :125回以上/年			○			・料理教室:93回 ・食育ミニ体験:139回	A	指標を上回った
		・園芸講座等の開催 :82回以上/年 (アトリウムでの開催を含む) ・花育体験の開催 :48回以上/年			○			・園芸講座等:120回 ・花育体験:118回	A	指標を上回った
	食と花のプロモーション	企画イベント :32回以上/年		○	○			93回	A	指標を上回った
	譲渡事業の推進	・市に収容された犬の譲渡率 :70%以上/年 ・市に収容された猫の譲渡率 :40%以上/年				○		・犬の譲渡率:89.1% ・猫の譲渡率76.3%	A	指標を上回った
財務	広報の充実	・HPの情報更新 :360回以上/年 ・SNSによる情報発信 :380回以上/年	○					・HPの情報更新:708回 ・SNSによる情報発信:1,307回	A	指標を上回った
	利用者の満足度	利用者アンケートで「満足」が85%以上	○					97.0%	A	指標を上回った
	適正な財政運営	収支計画に基づく収入の確保及び費用の執行	○					指定管理収支が黒字	A	指定管理収支が黒字
		利用者ニーズを踏まえた開館日数・開館時間等の設定による効率的な運営	○					12月から3月第3火曜日まで 冬休みを除く毎週火曜日を休館とした(平時は毎月第2、第4火曜日を休館としている)	B	指標の通り
業務	適正な財務管理	財務マニュアルの作成及び収支状況の記録	○					適正に実施	B	指標の通り
	安心・安全の確保	・防災訓練:年2回以上実施 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルの作成	○					・防災訓練:2回実施 ・マニュアル作成済	B	指標の通り
	コンプライアンスの徹底	職員へのコンプライアンス研修受講 :1回以上/年	○					1回	B	指標の通り
	市内産業の貢献	・再委託する場合の市内事業者への再委託及び資材等の市内事業者(店舗)等からの調達率 :90%以上	○					90.5%	B	指標の通り
	市民協働の推進	ボランティアの受入れ :延べ700人/年以上	○					478人	C	指標を下回った
		市内の動物関係団体等との連携事業 :7回以上/年				○		12回	A	指標を上回った
		市内の子ども創作・体験活動に関する個人および団体等との連携事業 :210回以上/年					○	164回	C	指標を下回った
人材	社会貢献	施設内の各種作業についての障がい者の受付 :延べ50人/年以上 (業務委託により障がい福祉サービス事業所等より障がい者を受け付けた人数)※令和7年度より定義を明確化	○					232人	A	指標を上回った
	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	○					適正に実施	B	指標の通り
	業務の理解度と習得度	職員の業務研修 :1人あたり2回以上/年	○					5.8回	A	指標を上回った
	市内雇用の貢献度	市内住居者の雇用率 :90%以上	○					96.7%	A	指標を上回った

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

■ 食と花の交流センター

今年度は、既存のお客様はもちろん、新規の開拓にも力を入れました。貸館も含めて体験系のイベント以外に音楽系や販売・展示系など客を呼ぶイベントも多数企画し開催しました。年間を通して今まで一番少なかった10代～30代の年齢層のお客様に楽しんでいただけた。結果として交流センター全体の入場者数は724,912人(前年度比+10,273:101%、前々年度比+28,833人:104%)で、前年度を上回った。施設別では、ガーデンが335,211人(前年度比+24,391人:107.8%)、レストランが30,338人(前年度比+208人:100.7%)、直売所は359,363人(前年度比-14,326人:96.2%)でガーデンとレストランのみ前年度を上回った。団体利用では、220団体(前年度比+36団体:119%)、7,941人(前年度比較+751人:110%)の利用があり、前年度を人数と件数ともに上回った。食と花のプロモーション事業ではガーデンでの植栽管理・ガーデニング関連事業38回、ガーデンでの実地講座とガーデンを会場としたイベントがそれぞれ16回、20回花に関連した展示が5回、その他5回、合計84回実施した。交流センターのみで見ても要求水準の30回以上を大きく上回った。広報の充実ではHP更新回数は708回(前年度比較+181回)、交流センターが担当として要求水準を上回った。SNSによる情報発信は交流センター単独で見ても384回と要求水準を上回った。今年は特にInstagramにおいては、イベントや講座情報だけでなく、ガーデンの花や出店者のお店、依頼したインフルエンサーによるいくとぴあ等の情報発信を積極的に行った。今後も積極的にSNSを活用し、大勢の方に情報を発信していきたい。

その他の部分では自主事業として行っている夏・冬のイルミネーションは今年度、冬のみに集中して11月1日(土)～12月28日(日)で開催しました。今年、広報とイベント内容において初の試みをいくつか試した。結果としてイルミネーション来場者数は17,949人(前年度比+7,657人:174%)で前年度に比べ大幅に増加し、事業収支も良い結果となった。開催期間中、非常に多くのお客様から入場いただき楽しんでもらった。

【未達成項目への改善策等】

- 団体利用に関しては、ホームページやSNSで団体利用のメリットの発信や季節限定イベントを紹介する。また、観光協会、学校関係機関、地域団体などを通した情報発信を行い、団体向けプログラム・サービスを充実させるなど工夫して数値改善を図る。
- 食・花・こども・動物分野のコラボ事業に関して自己のセンターのみで完結するのではなく、、他のセンターと連携できないかという観点から考えることを意識して各センターに共通するテーマを設定しコラボレーションイベントを企画する。

■ 食育・花育センター

- 入館者数
年間の入館者数は348,208人で前年度(R6年)比 111%、前々年度(R5年)費123%と、順調に増加している。
- 団体利用(要求水準:360団体以上)
団体利用は、457団体(前年度比:115%)、13,846人(前年度比:110%)の利用があり、件数、人数ともに上回った。
- 食育・花育の推進(要求水準:料理教室等年187回以上、園芸講座等年130回以上)
食育推進事業は、料理教室等において232回(前年度比較+14回:106%)で、食育ミニ体験の回数はわずかに減少となったが、人数では(前年度比較+1,333人:122%)であった。
花育推進事業は、園芸講座等において238回(前年度比較+33回:116%)で、要求水準を上回ることができた。
教室や講座の参加者や施設を利用した2,636人から回答をいただいたアンケートでは、接遇満足度は97.3%、施設満足度は96.3%であった。また、リピーター度は80.1%であった。
- 広報の充実(要求水準:SNSによる情報発信360回以上/年)
SNSによる情報発信は209件であった。特にSNSのInstagramは投稿内容や運用基準を見直し、より効果的な内容へとブラッシュアップした。
- その他
2月の閑散期に、新規となるイベント「フラワーウエーブ新潟2025」を2月20日～22日の3日間、食育・花育センターと花とみどりの展示館で開催でき、この時期としての来館者の大幅増へと繋がった。

■ 動物ふれあいセンター
【アピールしたい事項】 入館者数は評価指標比で109.7%、団体利用数は評価指標比で118.7%と指標を大きく上回った。また利用者満足度も指標を大きくクリアした。来館者数増加の要因として、週末毎に実施する体験イベントのブラッシュアップやSNSやHPの定期的な発信の効果があったものと思われる。 引き続き適切な運営を行い、次年度においても指標のクリアを目指す。
【未達成項目への改善策等】 コラボ事業の実施数に関して、各種動物とのグリーティングのガーデンでの開催数を増やす等、開催頻度を増やし、数値改善を目指す。
■ こども創造センター
令和7年度は、開館335日(令和6年度335日)であったが、年間利用者数309,985人・一日平均利用者数924人となり、前年度を大きく上回った。前年度に引き続き、新潟市民の身近なお出掛け先としての定着・拡大が進んでいる。また、乳幼児を連れて若い世代、とりわけ、イクメンパパや祖父母の増加が見られ、変わらず、上中越・佐渡・粟島・村上や特別支援学校の修学旅行先としての利用もあった。 平日利用の増加については、「ベビーマッサージ教室」「おロリトミック」「赤ちゃんと産後ママのためのエクササイズ」「親子でヨガ」等の平日開催サポーター協働型乳幼児向けイベントが増加・定着し、口コミ等で広がっていることが伺える。 ＜次年度重点事項＞ ○ 乳幼児を連れて利用者の方が楽しめる事業をさらに継続・発展させるとともに、長期休業中の園児・小学生や年度末・年度初めの新潟市転入の親子さんのさらなる利用促進に努める。また、先進的な乳幼児教育や新潟市こども条例等のさらなる啓発活動を行う。 ○ 公共の教育施設を使用する際のマナー等について、さらなる啓発を継続・促進し、安心・安全で楽しく遊び・学べる施設の周知に努める。 ○ さらに幅広くボランティアを募ると共に、ボランティアとの一層の協働等により、年間20万人を超えるこども創造センターの、キャパシティを超えた際の対応に備える。
所管課による総合評価(所見)
【全体評価】 各施設とも設置目的に沿った事業を積極的に実施し、事業計画書に従った適切な管理運営が実行されている。いくとぴあ食花全体の来場者数は平成26年のグランドオープン以降過去最高を記録し、令和元年度以来、6年ぶりに目標を達成した。 団体体験プログラムの実施回数やホームページやSNSによる広報件数等において目標値を大きく上回っており、施設全体の満足度も引き続き高水準を維持できていることを高く評価する。一方で、各センター間のコラボ事業については目標に達しなかったため、令和8年度については複数の特色ある施設が並ぶ「いくとぴあ食花」ならではのコラボ企画の充実をより図っていただき、目標達成となるよう取り組んでいただきたい。 施設設備の老朽化などが進んでいる状況ではあるが、引き続き4施設の特徴を生かした企画や運営・経営の工夫により、より多くの方に満足いただける施設となることを期待する。
【食と花の交流センター（所管課:食と花の推進課）】 令和6年度に来場者数過去最高を記録していたが、令和7年度はそれをさらに更新した。春のチューリップや初夏のバラ、冬のイルミネーションなど、多くのリピーターを獲得している見本園内のコンテンツを更に充実させたことに加え、これまでも課題としてあった若年層の来場者数増を目指し、新しい切り口でのイベント企画を積極的に行った姿勢を高く評価する。SNS広報においても既存の方法ややり方にとらわれず、新しい試みに挑戦したことが来場者数増加を後押ししたものと推察できる。 団体利用については、目標には達しなかったものの、件数・人数ともに前年度を大きく上回った。引き続き団体利用者獲得に向け適切な広報を行うなど、改善に期待する。 令和8年度についても、既存事業のブラッシュアップに努めていただくとともに、新しい着眼点を持ちながら「食と花の交流センターだからできる」イベントの発掘に取り組んでいただきたい。
【食育・花育センター（所管課:食と花の推進課）】 施設の設置目的に沿った各種体験事業を実施するとともに、設定されている評価指標については、すべて目標値を上回る実績となっていること、また、利用者満足度が高い水準を維持していることを評価する。食育事業においては、令和6年度末に認定された「食文化ミュージアム」として本格始動となった1年だったこと、花育事業においては、企画イベントの増加により、花育マスター及び職員主体での花育体験が、施設全体の活性化に寄与していることを高く評価する。 今後は、若い世代の参加者増に向け、引き続き効果的なSNSによる情報発信に努めるとともに、各種団体等との連携による事業展開など、さらなる体験事業の充実と、花育展示について、来館者の関心や学びを一層深めていける場となることを期待する。
【動物ふれあいセンター（所管課:動物愛護センター）】 設置目的に沿った体験事業を積極的に実施し、事業計画書に基づき適切に管理運営されている。令和7年度から猫の譲渡事務を全面的に委託するようになった。これにより土日祝日の譲渡が可能になるなど、より一層効率的かつ円滑に事業がすすめられた。また、長寿で有名だったカピバラの老衰死やヤギの出産ラッシュ等、飼育動物にまつわる様々な出来事の広報にSNS等を有効活用し市民に親しまれた。今後もいくとぴあ食花各施設との連携を強化し、魅力あるイベントを開催し、新規の来場者及びリピーターの確保に繋げていただきたい。
【こども創造センター（所管課:こども政策課）】 利用者数、とりわけ休日の利用者数が昨年度から大幅に増加しており、休日の家族のふれあいスポットとしての認知度が高まっていることが伺える。日々の取組が着実な成果を上げていることを評価するとともに、指標に達していない地域交流活動について、引き続き積極的に実施することを求める。